

組合だより

第 245 号 平成26年11月 日本羊腸輸入組合

エボラ出血熱に関連してワイドショーから得た知識ですが、検疫を意味する英語の quarantine は、イタリア語の 40 を意味する quaranta を語源としているそうです。なぜ 40 なのかは、中世ヴェネチア国が港に入ってきた船から疫病が広がるとして、港外に 40 日間強制的に停泊させ、感染者がいなか、異常がないかを確認する水際措置を執ったことに依るようです。エボラ出血熱対策で、アメリカでは患者の隔離と人権が問題になってますし、西アフリカからの旅行者の入国を禁ずるという国もありますし、日本も感染の疑いのある旅行者が出たことで、水際対策への関心が高まっています。入国時に通常の体温測定に加え旅行者の自己申告による監視体制が基本となるようですが、自己申告以外の積極的な水際対策はないのかと考えてしまいます。兎に角、潜伏期間を隔離するだけの水際対策よりも、より積極的な対策が採られ世界的な蔓延を防いで欲しいと願います。

1. 組合の活動報告

○10月8日 第2回検査委員会

佐藤委員長、尾上副委員長はじめ各委員・検査所長・主任等 16 名が参加し、横浜検査所（八幡橋及び新山下）の視察、検査実施項目の見直し等について検討を行いました。

視察後の検討会では、委員による指摘事項と改善策について意見交換をし、必要な措置を講ずることとしました。また、検査実施項目の見直しについては、組合員皆様へのアンケート結果を踏まえ、現状維持としつつも検査作業に役立てるためのデータ収集を引き続き行うこととしました。

○10月22日 第2回内外市場調査・弘報委員会

関委員長、松澤副委員長外 7 名の委員全員が出席し、年度内実施を予定している市場調査対象国、来年のカレンダー作成等について検討を行いました。

市場調査対象国については、第1回委員会で候補に挙がった 7 カ国の基本データ等に基づき検討した結果、2 カ国に絞り再度情報収集を行った上で決定することとしました。また、来年のカレンダーにつきましては、入札結果を踏まえ発注者を確定し、例年同様のスケジュールで組合員皆様のお手元に届くよう進めることとしました。

○輸入統計等の情報提供

【財務省通関統計】

平成 26 年 9 月の天然ケーシングの総輸入量は、371.8 トンとなり、前月比 +112.5 トン、+43.4% でした。国別では、中国原産のものが 205.1 トン（前月比 +17.8 トン、+9.5%）、オーストラリア原産のものが 131.1 トン（+69.3 トン、+112.2%）、ニュージーランド原産のものが 25.8 トン（前月比 +22.5 トン、+683.3%）でした。

また、本年 1～9 月の累計輸入量は、2,844.5 トンとなり、前年同期比 667.4 トンの増加（+30.7%）となっています。

【組合受付統計】

平成 26 年 10 月の受付数量は、860,723 ハクス（前月比 +282,945 ハクス、+49.0%）でした。対前年同月比は、+3.6% です。

船舶、航空の別は次のとおりです。

船舶 806,300 ハクス 航空 54,423 ハクス

2. 検査所だより

成田検査所の動向

- ① 10月の航空貨物の受付数量は、54,423Hksと今年度に入り初めて5万Hksを超えました。先月の約2.5倍の増加でした。
- ② 10月31日現在、成田検査所に搬入された貨物は、11月5日までに消毒完了する予定です。
- ③ 10月7日「安全推進講演会」（主催：NAA）を東所長が受講しました。慶応大学の木村教授の講演「いつか起こる大地震から命を守るために」は具体的で分かりやすい講演でした。地震は予知できないもの、地震・津波から命を守るのは自分自身であること、を知らされました。
- ④ 10月分の受付数量及び消毒数量等は下表のとおりです。

種	類	前月からの繰越	受 付	消 毒	翌月への繰越
航空	羊 腸	0	54,423	51,423	3,000
	豚 腸	0	0	0	0
	合計	0	54,423	51,423	3,000
船舶	羊 腸	0	50,290	50,290	0
	豚 腸	0	0	0	0
	合計	0	50,290	50,290	0
合計	羊 腸	0	104,713	101,713	3,000
	豚 腸	0	0	0	0
	合計	0	104,713	101,713	3,000

(単位：羊・豚腸：Hks、牛腸：Bundle)

横浜検査所の動向

- ① インフルエンザ及びノロウィルスの予防のため、職員に手洗い・うがい等の励行とインフルエンザの予防接種を受けるよう周知しました。
- ② 10月8日（水）に平成26年度第2回検査委員会の委員視察が横浜及び新山下検査所で行われ、各委員からの指摘事項について改善を図ることとしました。
- ③ 10月の受付数量は、806,300Hksと前月に比べて250,502Hks増加し、前月比145.1%となりました。
- ④ 10月の消毒数量は、341,050Hksで、前月に比べ86,389Hks減となっています。なお、10月の成田検査所への転送は50,290Hks（3回）でした。
- ⑤ 10月末受付分の消毒終了予定は、消毒貨物が順調に搬入された場合には、平成26年11月27日（木）です。

（注）消毒予定の順番は、当分の間、搬入期日が決まった順に消毒することにしていきますので、消毒終了予定が受付番号順と異なることがあります。

- ⑥ 10月の受付数量、消毒数量、成田転送状況は、下表のとおりです。

種別	前月の繰越分	受 付 数 量	消 毒 数 量			成田転送数 量	翌月への繰越分
			横 浜	新山下	小 計		
羊腸	413,248	794,600	323,950	346,298	670,248	50,290	487,310
豚腸	34,200	11,700	17,100	12,600	29,700	0	16,200
計	447,448	806,300	341,050	358,898	699,948	50,290	503,510
牛腸	0	0	0	0	0	0	0

(単位：羊・豚腸：Hks、牛腸：Bundle)

新山下検査所の動向

①落ち葉が風に舞う季節となり、朝晩と、日増しに寒さが身にしみるようになりました。体調を崩し易い時期なので、検査職、消毒職共に体調管理を徹底し、消毒所内の室温、湿度等に気をつけて業務に励んでいます。

②10月29日に動物検疫所検疫部から獣医職の新規採用者2名が、研修の一環で輸入羊腸消毒の現場見学のため来所しました。

③10月の受付数量及び消毒数量は、下表のとおりです。

種別	前月の繰越分	受付数量	消毒数量	翌月への繰越分
羊腸	45,998	336,150	346,298	35,850
豚腸	0	12,600	12,600	0
計	45,998	348,750	358,898	35,850
牛腸	0	0	0	0

(単位：羊・豚腸：Hks、牛腸：Bundle)

3. 今後の主な予定

- 11月4日(火) 日本羊腸輸入組合創立記念日(振替臨時休業)
- 11月12日(水) 第6回理事会
- 11月18日(水) 輸入畜産物消毒講習受講

4. 事務局から

10月29日付けの畜産日報で「見出し：天然ケーシング解禁へ、めん羊・山羊のSRM見直しを検討 厚労省」との報道がありました。記事の内容は、「BSE対策見直しの一環として、厚労省がめん羊・山羊の検査対象月齢の見直しおよびBSE発生国からの輸入解禁を検討しているなか、めん羊・山羊のSRM(特定危険部位)の範囲も変更。食品安全委員会への諮問は年内ぎりぎりか、年明けになる模様。BSE発生国からのゼラチン輸入解禁は一足先に見直し作業が進んでいる。」というものです。

SRMの範囲の変更は、当組合や沖縄県等からのめん羊・やぎのBSE対策の見直し要望を受けたものであり、5月に開催された伝達性海綿状脳症対策部会で検討されております。

厚生省は、現時点で諮問のタイミングを言える段階にないとのことで、食品産業新聞社も記者の推測を述べたものとのことですが、食品安全委員会への諮問が早期に行われることを強く期待しております。

いずれにしても、引続き情報収集に努めたいと思います。